

第7回審議会における意見について(R2.10.2 第7回審議会資料)

資料 1

意見の概要	No.1 新施設の設計時はどのような設定だったか？ No.2 平成28年度をゴミ量ピークとした理由は？	No.3 途中で人口予測に合わせた見直しはできなかったのか？	No.4 いつ能力を超えるのか？
1 年度 (主な経過)	平成21年～ H21 施設能力検討 (H22.3 施設整備基本計画 策定) H22.11～H25.12 環境影響評価(アセス)	平成26年～ H26.7 工事発注(入札公告) H27.3～H30.3 建設工事 H28.3 人口予測見直し(増加) (人口見直しが工事発注後であった)	平成30年～ H30.3 新施設完成、運転開始 H30～ 粗大ごみの増加 (H30:2.0倍 対H29年比) 増加要因:搬入可能日拡大(平日の午前、土・祝日)、搬入手数料の従量制の導入 (直接搬入量はしばらく収まると考えていた) R2 人口予測見直し(増加)
2 予測焼却量 グラフ	<p>【現計画(H22年3月策定)】予測ごみ量</p>	<p>【人口見直し後(H27年)】予測ごみ量</p>	<p>【次期】予測ごみ量 → 【持込事前申請制度実施後】予測ごみ量</p>
3 予測人口ピーク	令和2年度 135,000人 「第5次総合計画」(H22年3月策定)	令和12年度 145,000人 ※R22まで横ばい 「草津市人口ビジョン」(H28年3月策定)	令和12年度 147,000人 「第6次総合計画」(R3年3月策定予定)
4 予測ごみ量ピーク (焼却)	平成28年度 34,200トン 1人1日あたりのごみ量が減少傾向にあり、 新施設完成(予定)のH28がごみ量ピークと予測	令和12年度 35,920トン (5.0%増 対H28年比) 予測人口の変更に伴い、予測ごみ量と施設能力を比較検討。 35,560トンを超えることになるが、運転日数を延ばすことで 処理可能であることを確認 (H27年度中)	令和14年度 40,795トン (16.2%増 対H28年比) 令和14年度 37,641トン (9.1%増 対H28年比) 過去4年間のごみ量をもとに、 トレンド法によるごみ量予測を 行った結果、近年の増加傾向を 反映
5 施設能力 (焼却)	35,560 トン (127トン×280日 [整備点検等を考慮した運転日数]) 127トン = (34,200トン(H28ごみ量)÷280日) × 1.04(※調整率) (※調整率) = 故障修理、一時休止等による処理能力の低下を考慮した係数	<div data-bbox="1113 1753 1973 2005" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>審議会での意見① 持込事前申請制度導入後も、集積所にごみが回ってしまい、委託収集量が増加して、ごみ量は減らないのではないか？</p> <p>審議会での意見② どのごみ種がどれだけ減ったのか、数値的根拠が必要ではないか？</p> <p>審議会での意見③ 目標値は焼却施設の処理能力である35,560tではなく、4%の調整率分を余力として残した34,200tとすべきではないか？</p> </div> <p>【目標とするごみ量】</p>	